

第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	小水力利用シンポジウム～農業用水を活かして農村をエネルギー基地に～
主催者	全国小水力利用推進協議会、ひた市民環境会議エネルギー部会、NPO九州・自然エネルギー推進ネットワーク
開催日	2007年12月 <input checked="" type="checkbox"/> 1日 <input type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	13:30～17:00
開催場所	<input type="checkbox"/> 別府市内 <input checked="" type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	大分ひた農協天ヶ瀬支店 2F 大研修室
参加人数	65名

開催概要（900字以内）

基調講演「自然エネルギーの活用と農村振興」森田昌史（財団法人日本水土総合研究所理事長）
事例発表1 大野町土地改良区（事務局長岡村哲也）、事例発表2 那須野ヶ原土地改良区連合（事務局長星野恵美子）

小水力発電についての国の推進政策の説明（九州農政局・九州経済産業局・九州地方整備局）
基本的な考え方について基調講演をいただいた後、事例にふれ、また国の政策の説明もあったことから、参加者一人ひとりが可能性について具体的に考えるようになり、質問も実際の建設を意識したものが多くあった。

主催者の一つであるひた市民環境会議エネルギー部会は継続的に小水力発電普及に取り組んでおり、本シンポジウムで今後の活動に弾みがついた。

シンポジウムの翌日には市内の小水力発電所（鯛尾発電所）の見学も行なった。



第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録



第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

小水力発電に関して、アジア諸国との継続的な連携・協働の核になっていただきたい。日本周辺でも、たとえばインドシナ半島には大きな水力エネルギーポテンシャルがあり、谷あいや扇状地に分散的に居住している地域も多いことから、小水力発電は村落電化や温暖化防止に大きく貢献するはずである。本イベントのアピール文に「アジア・太平洋諸国間の情報交換・相互支援のための組織の設立」という文言を入れたが、日本水フォーラム・アジア太平洋水フォーラムがその事務局を担っていただければたいへん有意義な活動になると考える。

その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

本会場の別府から離れた日田市で開催したことと、十分な準備ができなかったことから、全体との連動が充分ではなかったと感じている。とはいえ、マスコミにはオープンイベントとして取材していただき、新聞にもそのように掲載されるなど、広報面で一定の効果があったことは間違いない。

中国や東南アジアからの連絡や協働活動の可能性も少しずつ見えてきている。現在は国内に小水力利用を浸透させることの比重が大きく国際活動に裂く余裕はあまりないが、長期的には重要なテーマなので、今回のオープンイベントのような機会を利用しながら、少しずつ取り組んでゆきたいと考える。

